

災害があっても下水道は大じょう夫なの？

災害によって、下水道管・水再生センター・ポンプ所などが被害を受けると、私たちは普段通りの生活ができなくなってしまいます。

災害があっても下水道を使えるように、さまざまな対策がなされています。

大雨でも大じょう夫！

一時的に雨をためるし設を整備

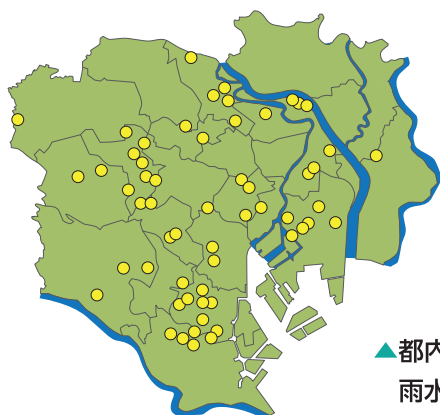
台風などの大雨によるしん水ひ害を防ぐため、雨水を一時的にためておくことができる広いスペースや大きな下水道管を街の下につくっています。



▲南砂雨水調整池。25mプール約80ぱい分の雨水をためることができる。



▲和田弥生幹線。中野区から杉並区まで通っている直径8.5m全長2.2kmの下水道管



▲都内の雨水貯留し設

東京アメッシュでゲリラごう雨に備える

雨の状きょうがリアルタイムで分かる「東京アメッシュ」を使って、ゲリラごう雨などの情報をじん速にはあくし、しん水に備えています。



▲東京アメッシュ



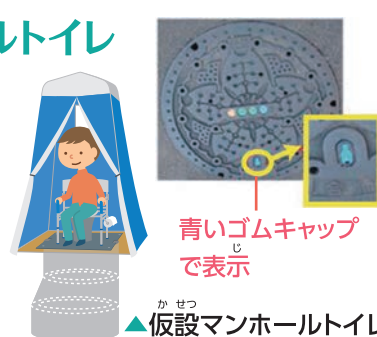
地しんが来ても安心！

下水道し設のたいしん化

地しんが起きても、私たちが普段通り下水道を使えるように、下水道管・水再生センター・ポンプ所のたいしん化を進めています。

仮設マンホールトイレ

青いゴムキャップがついたマンホールには、仮設トイレを設置して使うことができます。



▲仮設マンホールトイレ

電気が止まっても安心！

非常用電源設備

災害により停電しても、水再生センターやポンプ所の運転が止まらないよう、非常用電源設備の整備を進めています。

移動電源車

自家発電設備がないポンプ所などの下水道し設には、移動電源車を導入することで、停電しても電気を使うことができます。



▲移動電源車

しん水への備えを
万全に！



このほか、災害があつたときには、他の県や都市と助け合えるよう準備もしているよ。

